

細菌性髄膜炎の患者より *Listeria monocytogenes* を検出した一症例

◎山田 遼央¹⁾、米澤 由美子¹⁾、久保 優子¹⁾、吉田 真歩子¹⁾、坪田 誠¹⁾
石川県立中央病院¹⁾

【はじめに】

Listeria monocytogenes は通性嫌気性のグラム陽性桿菌で、土壌、水、肉などの環境中に広く分布しており、人獣共通感染症の1つとして知られている。今回、細菌性髄膜炎を発症した患者の血液培養および髄液培養より本菌を検出した症例を経験したので報告する。

【症例】

患者は大酒家の40代男性で、Covid-19陽性となった後、発熱や嘔吐が持続するため抗ウイルス薬や免疫抑制剤による治療を受けていた。その最中に進行性の意識障害を認めたことから当院に搬送され入院加療の運びとなった。発熱、項部硬直、意識障害といった所見から髄膜炎の可能性が指摘され、髄液検査やMRI検査等によって重度の細菌性髄膜炎およびそれに伴う水頭症と診断された。

【細菌学的検査】

当院初診時に採取された血液培養は培養開始から約20時間後に2セット全て陽性となり、培養液の塗抹標本をグラム染色するとグラム陽性桿菌が確認された。アキュレート分

画羊血液寒天/チョコレートEX II(島津ダイアグノスティクス社)に培養液を接種後37℃、5%炭酸ガス条件下で1晩培養したところ、小型のコロニーが発育しMALDIバイオタイパー(ブルカー・ダルトニクス社)を用いた質量分析によって*L. monocytogenes*と同定された。また、初回に採取された髄液からも本菌が検出された。

【考察】

本患者は川の伏流水でお酒を割って飲んでいただけ、加熱不十分と思われる牛肉を食べていたことがご家族の話より分かった。これらが*L. monocytogenes*の感染源になったと推測される。加えて、本患者はCovid-19に対して免疫抑制剤を用いた治療を行っており、大酒家であることも影響して免疫機能が低下し髄膜炎の発症および重症化につながった可能性が考えられる。また、今回の症例では経験的治療としてMEPMとVCMが選択されていたが、菌種同定によってABPCとGMに変更された。このことから細菌学的検査の結果報告がより良い治療の一助になったといえる。

連絡先：076-237-8211(内線2079)